



国立アイヌ民族博物館で7月3日から開催中の第2回特別展示が注目を集めている。明治末期のアイヌ民族の文化や歴史が描かれる人気漫画「ゴールデンカムイ」の世界を、原画を含め約200点の民具資料で紹介する企画が、同漫画のファンにとどまらない好評を得ています。8月22日まで。



作品にはアイヌのほかにも軍人や役人、外国人、樺太の先住民などさまざまな文化的背景を持つ人々が登場しますが、衣服や住居、生活用具などが時代背景とともに実に丁寧に描かれています。これらを原画と実物展示で紹介することで杉元とアシリパが旅した世界を追体験できる企画です。佐々木史郎館長

# 国立アイヌ民族博物館 第2回特別展示 ゴールデンカムイ トウラノ アッカシアン —杉元佐一とアシリパが旅する世界—

作品の編集に協力しています。漫画の要素は確実な資料を受け忠実に描かれています。展示がアイヌ文化に触れる入り口になってくれることを願っています。  
田村将人展示企画室長

漫画「ゴールデンカムイ」(集英社、北広島市出身の野田サトルさん作)は、明治末期の北海道や樺太を舞台に、アイヌから奪われた莫大な埋蔵金をめぐるサバイバルストーリー。“不死身”と呼ばれる男・杉元とアイヌの少女アシリパが共に旅をしながら謎に迫ります。

以前から来館者の中には、チセの模型などを見て「ゴールデンカムイにあった!」と喜ぶ反応もあったことから、同作品で描かれているアイヌ文化や時代背景を、原画約40点を軸に実物資料で紹介する同特別展示を企画しました。

展示構成は「北海道と砂金」「『ゴールデンカムイ』の登場人物」「コタンでの出会い」「日露戦争と北海道アイヌ」「樺太での出会い」「北海道の街」の6テーマで紹介しています。

実際の砂金掘りの道具(北海



道博物館蔵)や、アシリパの着物のモデル(小樽市総合博物館蔵)、マキリ、樺太アイヌが着用していた本道初の展示となった草皮衣(東北歴史博物館蔵「上衣」、囲炉裏端の再現コーナー、日露戦争に従軍したアイヌ民族関連の品、樺太アイヌの民具、漫画にも登場する実在の人物・永倉新八所用木刀(北海道博物館蔵)など興味深い貴重な資料が来場者を楽しませています。

※特別展示の観覧は別途料金が必要です。

